

第9節 環境教育・環境学習の推進

八王子は市域が186km²と広大なため、地域によって環境の現況や課題が異なることから、地域ごとの環境保全活動が重要となってきます。

また、今日の環境問題を解決し、後世に引き継いでいくためには、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、環境保全に対する意識を高め、環境に配慮した行動を心がけ、できるだけ環境に負荷をかけない生活をしていくことが必要です。

このような生活様式・習慣を身につけるためには、幼い頃からの自然体験や環境学習などが重要となるため、地域に根ざした環境教育・環境学習を推進しています。環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となります。

また、環境市民会議などでの環境保全活動を支援する人材を育成するとともに、地域での展開が図れるよう活動拠点の拡充も行っています。

20年度の主な目標

- | | 取り組みの掲載場所 |
|-----------------------|-------------|
| ・ 活動拠点の拡充 | 《P43 1.(2)》 |
| ・ 自然体験学習イベント及び環境学習の充実 | 《P43 1.(3)》 |
| ・ 副読本等教材の充実 | 《P44 2.(2)》 |
| ・ 地域に根ざした環境教育の充実 | 《P44 2.(3)》 |

1. 地域における環境学習の推進

(1) 人材育成と環境指標

ア. 環境学習リーダーの養成

自発的に環境保全活動に取り組む環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、14年度から環境学習リーダーを養成しています。

20年度は約7ヶ月間の受講を修了した20名が環境学習リーダーに認定され、認定者総数が133名となりました。



環境学習リーダー養成講座講義風景

イ. 環境診断士の養成と環境指標「ちえっくどう」の普及活用

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書である環境指標「ちえっくどう」を用いて環境診断を実施する際に、指導・助言ができるとともに、環境市民会議のメンバーとして地域の環境保全活動を行う人材として、14年度から環境診断士を養成しています。17年度には認定者総



「ちえっくどう」を体験中
(環境フェスティバル)

数が105名となり、当初目標の100名の養成を達成しましたが、現在は「ちえっくどう」の全面改訂版作成のため、養成講座を休講しています。

「ちえっくどう」を使用した地域の環境診断では、環境フェスティバルで212人の方に体験していただき、診断結果からエコ生活のアドバイスなども行いました。

(2) エコひろば（環境学習室）の拡充



環境啓発講座の講義風景

環境学習・リサイクル推進協議会が運営する環境学習室「エコひろば」は、市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体などが、地域に根ざした活動を展開するための活動拠点です。

「エコひろば」では、小学校などの見学や利用者の相談などに対応するとともに、協議会が主催する夏休み親子環境教室や市民や事業者が講師として登壇する環境啓発講座なども充実されたことにより、来場者は年間12,118人となり、前年比約45%増となりました。

また、「エコひろば」で行っている講座の案内や、学校や環境保全活動団体などが行う環境教育・環境学習に貸し出し可能な物品や図書のリストなど様々な情報提供をホームページにて発信しています。

「エコひろばホームページ」<http://www.ecohiroba.jp/index.html>

(3) 環境学習・啓発活動の展開

環境保全への意識の高揚を図るため、自然体験学習の一環として、環境市民会議主催の「自然体験講座」で自然に触れ合いながら環境について学習しました。

また、町会・自治会をはじめ、市民団体、多摩川漁協八王子支部、学校、河川管理者、行政で組織する八王子浅川子どもの水辺協議会では、「水辺のかんきょう教室」、「浅川の上流を見に行こう」を開催し、小学生などが川に親しみながら、水辺環境について学習しました。



自然体験講座の様子（浅川）

さらに、企業、環境保全活動団体、環境市民会議、大学及び市の協働のもと、市民一人ひとりの環境に対する意識の高揚を図り、環境保全を推進することを目的に「環境フェスティバル」を6月7日に、八王子駅北口西放射線ユーロードにおいて開催し、延べ40,000人の来場者でにぎわいました。

そのほか、小・中学校における総合的な学習の時間や市民主催の学習会などに市の職員が講師として出向く「はちおうじ出前講座」では、「八王子の環境」、「自然は友だち」、「ごみの減量とリサイクル」など6講座を開講し、環境教育・環境学習を支援し、環境意識の向上を図っています。

主な出前講座（環境分野）一覧

講座名	内容	参加人数
八王子の環境	大気環境及び河川の水質について説明	94人
自然は友だち	本市のみどりや本市に生息・生育する動植物を紹介し、みどりを守ることの大切さと、身近なみどりの抱える問題をわかりやすく説明	253人
ごみの減量とリサイクル	ごみ・資源物の分別・発生抑制について説明及びビデオ放映	2,074人

2. 環境教育の充実

(1) 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

学校教育における環境教育を一層推進するため、「学校教育における八王子市環境教育基本方針」を策定し、17年6月に公表しました。この基本方針は、子どもたちが身近な環境とのふれあいから環境に関心を持ち、自然を大切にすることを育むことにより、主体的に環境に関する問題を解決できる行動力をもった人になるよう育成することを目標としています。この目標を実現させるための取り組みとして、18・19年度は、環境教育モデル校4校（小宮小学校、美山小学校、南大沢小学校及び浅川中学校）で環境教育の研究を行い、2年間研究した成果を発表し市内各小・中学校に広めました。20年度からは全校において、環境教育全体計画を策定して、環境教育の実践を行っています。

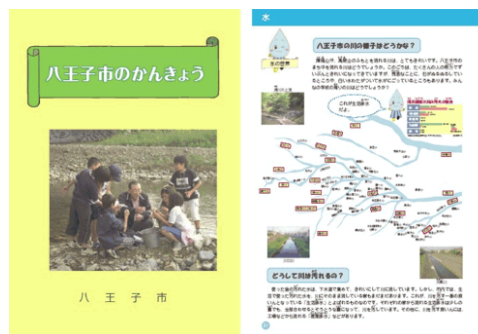
また、小中一貫教育指導資料に環境教育の実践事例等をまとめ、全校に配布し、各校における環境教育の充実に努めています。

(2) 環境教育副読本の作成

基本方針における環境教育目標である「環境問題に関心を持ち、環境問題を解決する行動力をもった人の育成」を実現するため、より幅広い環境について学べる環境教育副読本『八王子市のかんきょう』を20年3月に初版発行し、小学4年生に配布しています。

分野を「緑」、「資源」、「水」、「大気」とし、各学校の地域特性にあった学習が行えるようになっているとともに、学習の案内を行うキャラクターを作成し、児童が学習に親しみやすいよう、工夫しています。

また、ごみ減量・リサイクルの意識を育てるため、小学校の社会科副読本として「きれいなまち八王子」を作成するとともに、川への関心を高めるために「川と友だちになるノート」も作成し、毎年小学4年生に配布しています。学校ではこれらの副読本を活用し、環境教育の充実に努めています。



環境教育副読本

「八王子市のかんきょう」

(3) 地域との連携による環境教育

小・中学校において、総合的な学習の時間などを使って行われる八王子の地域特性を活かした環境学習に、地域における環境保全活動の経験や知識を持った環境市民会議員や環境学習リーダー



水生昆虫・魚の観察の様子
(第九小学校)

一、環境診断士などを紹介する環境教育支援事業を「エコひろば」にて行いました。

20年度は11校に対し、延べ223人の環境教育支援者が浅川や初沢山などで行われた自然体験学習などに携わりました。

今後も、地域と連携した環境教育の推進を図っていきます。

3. 環境情報の提供

(1) 「環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、毎年、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を点検・評価し、明らかにした「八王子市環境白書」を発行しました。また、市の環境の現状に関するデータは、別冊のデータ集としてまとめました。

(2) 「環境報告書」の発行

八王子市内にある5ヶ所の清掃施設について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすために、環境配慮の方針、目標、取り組み内容、実績を公表しました。

(3) ホームページによる環境情報発信

八王子市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

(4) 「エコひろば」(八王子市環境学習室) ホームページの開設

「エコひろば」では、ホームページ(<http://www.ecohiroba.jp/index.html>)を開設し、講座の実施予定や環境教育支援事業の状況など環境教育・環境学習の情報を中心に情報提供を行っています。

4. 評価

環境基本計画における5つの重点取り組みの内「環境教育・環境学習」の分野について、3段階からなる評価を行いました。また、市の内部評価及び環境推進会議における市民との相互の評価は以下のとおりです。(評価の手法については15ページ参照)

評価 : ★★ 当初の目標を達成した

<市の内部評価>

市立小中学校で作成した「環境教育全体計画」に基づき、各校において環境教育を実施したことは、高く評価できる。環境保全活動の拠点となるエコひろばにおいては、充実した講座を開催したことなどから目標を上回る来場者数となり、高く評価できるが、出前講座などを積極的に行うなど、地域での活動の広がりを図ること。

市職員に対する環境学習については、市が率先して環境配慮行動に取り組むとともに、研修を積み重ね環境への意識の高揚を図ること。

また、自然体験学習などについても、多くの市民の方々に参加いただけるよう、一層の工夫に努めること。

<環境推進会議での評価>

学校ごとの環境教育全体計画を見直す際は、地域を知る市民とのパートナーシップで進めるよう努めてほしい。また小学校の環境教育はひと学年だけでなく、学年をまたいで継続的な実施に努めてほしい。

環境診断士が地域の環境市民会議に参加しやすい仕組みを検討すること。

環境白書を多くの人が手にしやすくなるような公表方法を検討すること。